

令和6年度

「運営に関する計画」

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

大阪市立東井高野小学校

令和6年10月

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○本校の教育目標「豊かな心を育み、自らの能力を伸ばすたくましい子どもを育てる。」を達成する前提として、学校が児童にとって「楽しい」と感じることができる場である必要がある。しかし毎年、8%程度の児童が「楽しい」と感じておらず、今日的課題であるいじめや不登校問題とも密接に関係していると考えられる。家庭や関係諸機関との連携も含め、学校全体の課題として取組をすすめる必要がある。

○規範意識や自己有用感の醸成、他者の尊重や将来を見据えた自己イメージの獲得のためには欠点も含めて「自分のことが好き」という自己肯定感が前提条件となる。約15%の児童が自己肯定感をもてずに学校生活を送っていることは課題であり、豊かな体験を通して一人ひとりの良さを伸ばす取組をする必要がある。

○大阪市小学校学力経年調査の結果の標準化得点では95~105ポイントの中で推移し、また、全国学力・学習状況調査でも全国平均とは開きがあり、学習内容の定着、基礎・基本の定着に課題があることがわかる。家庭とも連携して自主学習の確立や読書活動を充実していく必要がある。また、各種学力調査においても無回答率が高く、学習に対して無関心や自分ごととして取り組めていない児童が少なくない。そこで、学習への参加感を伴った「わかる」授業を積み重ねることで、学習に対しての意欲や関心を高めることが大切であると考ええる。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点では男女とも全国平均を上回っている。これまでの体育科学習の積み重ねの成果と考えられる。また、広い運動場や一部の芝生化など、これらを活用して日頃から遊び・運動に親しむ機会が多いことと、地域での活動が功を奏している。一方で運動が好きな児童とそうでない児童の二極化もみられ、それらが課題として考えられる。

○教育活動にICT機器を導入し授業や学校活動に活用してきた。さらに一人一台端末を学習や生活指導に積極的に使用している。しかし、ICT機器と一人一台端末を連携しての有効的な活用方法や使用方法、情報モラルなどに課題があり、今後は、より良い活用を構築することが必要である。

○学校が日常の取組を着実に推進する中で、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間の確保が課題である。そのためには教職員の長時間勤務の解消をはじめ、学校業務の精選をはじめとした「働く範囲」の明確化と、教職員が「働きがい」を感じられる取組をすすめる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和 6 年度全市目標 (81.2%) 以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合割合 100%をめざす。
- 令和 7 年度の全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和 7 年度全市計画目標 (35.0%) 以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和 7 年度全市計画目標 (62.6%) 以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 97%以上にする。
- 令和 7 年度末の校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。
- 令和 7 年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和 7 年度全市計画目標 (80%) 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和6年度全市目標(81.2%)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。
- 全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度全市目標(34.8%)以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和6年度全市目標(62.3%)以上にする。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度水準（前年度同調査 96.5%）にする。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（前年度同調査 86.6%）以上にする。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。
- 「ゆとりの日」を週1回以上設定する。年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を70%以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に3日以上設定する。
- 大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和6年度全市目標(78%)以上にする。

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%をめざす。 ○全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和6年度全市目標(81.2%)以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 職員全体でいじめの早期発見や、不登校傾向にある児童についての共通理解に努める。また、関係児童への細やかな対応・配慮を行えるよう、学校全体で指導・支援体制を整える。 (いじめへの対応)(不登校への対応)	B
指標 「心の天気」を毎日実施し、「相談機能」を含めて複数の職員で確認し、児童の心の変化に素早く対応できるようにする。また、これらの情報を「アセス調査の結果」などとともに共有し、個に応じた指導・支援方法の手立てを組織として考え、共通理解する生活指導報告会を、毎学期複数回実施する。	
取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 災害など緊急事態において、自らの命を守るための避難行動をとることができるよう、目的意識をもった防災教育を推進し、防災への意識を高める。 (安全教育の推進)	B
指標 火災・防犯・地震・津波を想定した避難訓練を年間3回、引き渡し訓練を1回実施する。各訓練の前後には、自分たちができることについて考える時間を設ける。また、各教科等で、災害や防災に関係する学習を行う際には、児童の発達段階に応じて、自助、共助、公助についての視点を持てるようにする。	
取組内容③【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 50周年記念イベントを含めた児童会行事の充実、児童のたてわり(異学年交流)活動の充実を図り、児童にとって楽しい学校生活ができるようにする。 (不登校への対応)	B
指標 ・児童会を中心に、児童会行事やたて割り活動の際に、がんばったことや良いことを褒めて自己肯定感を高めるフィードバックを行う。 ・全学年が関わるイベントを3つ以上行う。また、全学年が学年間の交流を1回以上行う。	
取組内容④【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。また、児童が将来の夢や目標、自己有用感を持つとともに自他を尊重する心を育む。 (キャリア教育の充実)	B
指標 校長経営戦略予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を、全学年で年間複数回実施する。また、学期ごとや行事ごとにキャリアパスポートや振り返りシートを活用し、自己の成長を振り返る機会とする。	
取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、発達段階に応じた系統的な人権教育を実践し、児童が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。 (人権を尊重する教育の推進)	B
指標 人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを学期に1回以上行い、年度末に成果と課題を共有する。	
取組内容⑥【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、全児童の参加感を高めることで、自他の尊重を育み、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。 (インクルーシブ教育の推進)	B
指標 校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合 100%を目指す	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 全国学力学習状況調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合は 92%であった。
- 全国学力学習状況調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 96.1%であり、目標(81.2%)を上回っている。

取組内容①「心の天気」の取り組みは、複数の職員での確認体制を含め定着してきている。また、アセス調査を実施したものの、結果の共有にまでは至っていない。

取組内容②年間計画通りに訓練を実施できている。一方、児童の防災意識をより高める取組をすすめる必要がある。

取組内容③50周年記念イベントを含めた、たくさんの児童会行事に取り組んだ。児童のたてわり（異学年交流）活動を集会の時間に毎回行ったり、子どもフェスティバルやあいさつ運動を行ったりした。

取組内容④年度当初に計画していた社会見学や出前授業は計画通りに実施できている。また、必要に応じてゲストティーチャーを招聘した授業も実施した。1学期初めと、運動会後のキャリアパスポートでのふり返りも実施した。

取組内容⑤人権年間指導計画をもとに、各学年で取り組むことができている。

取組内容⑥校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 89.4%であった。全体での児童会活動や、学級でのグループ活動など、参加感を感じることができる取り組みを行えている。また、学級ではいいところ見つけや全員スピーチなどにも取り組んでいる。

今後の改善点

年度目標

- 今後も目標の 100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 今後も、取組を通して児童の自己肯定感が高まるように教育活動を推進する。

取組内容①「心の天気」については、児童の入力状況に個人差がみられるため、声かけを継続して行う必要がある。アセス調査については、生活指導報告会などを通して共有する機会を増やし、個に応じた指導や支援を多角的に考えていく必要がある。

取組内容②訓練のマナー化を防ぐために、補助資料の活用などを通して改善していく。また、訓練の事前事後指導をしっかりと行っていくことで、自助・共助・公助の視点をもてるようにする。

取組内容③児童会行事やたて割り活動の際に、がんばったことや良いことを褒める時間を確保する。また、今後も全学年が関わるイベントや、学年間の交流を行う機会を作っていく。

取組内容④今後も、年度計画に則り、校外学習や出前授業を行い、児童自らがキャリアを考えたり自己有用感を高めたりする機会としていく。

取組内容⑤今後も、計画されている人権教育や体験活動などを実施し、共生教育の充実を図る。年度末の成果と課題の共有に向けても取り組んでいく。

取組内容⑥授業の中での子ども同士の交流などを通して、参加感を感じることができるよう、日々の小さな積み重ねを大切に、自己肯定感が高まるような取り組みを工夫していく必要がある。

大阪市立東井高野小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合100%をめざす。 ○全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和6年度全市目標(34.8%)以上にする。 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を令和6年度全市目標(62.3%)以上にする。 ○校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度水準(前年度同調査96.5%)にする。 ○校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(前年度同調査86.6%)以上にする。 ○校内調査における「給食の月目標を守ることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究において、過去3年間の研究を活かした「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあて、授業の充実と改善を図る。(言語活動・理数教育の充実) (「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 全体研究授業、部内研究授業をあわせて年間6回の校内研修を行う。また、「総合的読解力育成カリキュラム」の教材に年間1つ以上取り組む。	B
取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 さまざまな学習の中で、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流を取り入れ、児童の参加感を大切に授業づくりを計画的に取り組む。(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 言語力を活かした対話と交流をするために、各教科の年間指導計画をもとに、学習したことを活用できる場を設定し、年間に1回以上取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 国語科のモジュール学習で視写に取り組み、書く力へとつながる基礎を培う。(言語活動・理数教育の充実) 指標 国語科のモジュール学習を週1回実施する。また、決められた時間で視写ができる量を増やす。	B
取組内容④【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 授業で学習したことを振り返ったり深めたりするために、引き続きプラスノートを活用し、家庭学習の習慣へとつなげる。(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標 校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童を前年度(75.2%)以上にする。	B
取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 運動に親しむ機会を設けたり、用具の充実を図ったりして、進んで体力づくりに取り組めるようにする。(体力・運動能力向上のための取組の推進) 指標 運動委員会を中心に、学期に1回体を動かす活動を計画し、実施する。また、遊びの紹介をすることによって遊びのレパートリーを増やし、外遊びを充実させる。	C
取組内容⑥【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 手洗いや、ハンカチを身につける習慣がつくよう強調習慣を設定し、健康保持に対する意識を高める。(健康教育・食育の推進) 指標 保健美化委員会が中心となり活動する強調週間を年複数回実施することで、健康保持に対する意識を高める。	B
取組内容⑦【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 朝ごはんの大切さを知り、朝ごはんを食べると生活リズムが整うことや、一日の活動への充実につながることを理解する。(健康教育・食育の推進) 指標 朝ごはんの大切さについての健康教育、食に関する指導を年間1回以上する。さらに、通信を1回以上発行し家庭への啓発を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

- 校内調査における「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は93.5%であった。
- 全国学力学習状況調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は51%で、目標(34.8%)を上回っている。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果が公表されていないため、現時点では結果の分析を行うことができない。
- 校内調査における「正しく手洗いをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は96.2%で前年度同調査(96.5%)水準である。
- 校内調査における「いつもハンカチを身につけている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は86.2%であり、前年度同調査86.6%を若干下回っている。
- 校内調査における「給食の月目標を守ることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合は94.7%であり、目標の80%を上回っている。

- 取組内容①研究授業や校内研修は計画通り行えている。各学年の言語力育成に向けた取り組みの年間目標、また、進捗状況を全体で交流し、授業の充実と改善を図っている。
- 取組内容②言語力を活かした学習の交流の場として、図書室前に掲示板を設け、各学年の取り組みを掲示して交流し合うことができるようにしている。また、各学年1つ以上の研究授業で、言語力を活かした取り組みについて学び合う場を設定している。
- 取組内容③モジュール学習での視写では、めあてや進め方を共通理解した上で始め、決まった時間に丁寧に書くことを通して、書く力の育成に努めている。
- 取組内容④校内調査における「学校で出された宿題以外に自分で計画を立てて学習(予習・復習など)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は83.0%であり、目標の75.2%を上回っており、プラスノート等の取り組みの成果が出ている。
- 取組内容⑤運動委員会の活動は、実施に向けて計画が整った段階である。しかし、児童集会などの児童会活動では、さまざまな遊びを通して、運動に親しむ機会をもつことができています。
- 取組内容⑥保健美化委員会を中心として学期に1回強調週間が実施できている。手洗いの習慣は身につけてきているが、ハンカチをいつも身につけている児童は多くない。アンケート結果によると、「いつもハンカチを身につけていますか」の質問に対して、肯定的に答える児童は多いが、最も肯定的に答える児童は少ない。
- 取組内容⑦朝ごはんの大切さについての健康教育や食に関する指導は1回以上実施できた。通信に関しても夏休み前に発行できおり、冬休み前にも発行する予定である。

今後の改善点

年度目標

- 今後も目標の100%に近づくことができるよう、取組を継続する。
- 今後も対話や交流のある学習を、継続して行っていく必要がある。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。
- 【取組内容⑥】参照
- 【取組内容⑥】参照
- 今後も、目標意識をもてる給食の時間となるよう、取組を継続する。

- 取組内容①有意義な研修となるよう、今後研究授業や校内研修を計画通り行う。
- 取組内容②言語力を活かした対話と交流については、日々の授業でもより積極的に取り組んでいく必要がある。
- 取組内容③書く力のさらなる向上のために、視写では、語のまとまりを意識して、覚えて書くことができるよう指導していく必要がある。
- 取組内容④プラスノートでの学習の進め方を交流するなどし、目標をもって意欲的に取り組めるよう指導していく。週1回以上行うことを継続し、習慣へとつなげるようにする。
- 取組内容⑤運動委員会の体を動かす活動を実施し、進んで体力づくりに取り組めるようにする。また、用具の充実を図る必要もある。
- 取組内容⑥ハンカチチェックデーや強調週間を活用し、ハンカチをいつも身につけることを意識させる必要がある。
- 取組内容⑦子どもへ向けての啓発はできているが、家庭への啓発がまだ十分にできていないので、学級懇談会や個人懇談会の機会を通して家庭への朝ごはんの大切さを伝えていく必要がある。

大阪市立東井高野小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75% 以上にする。 ○「ゆとりの日」を週 1 回以上設定する。年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に 3 日以上設定する。 ○大阪市小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に 1 回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を令和 6 年度全市目標 (78%) 以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号 6、教育 D X (デジタルフォーメーション) の推進】 系統的なプログラミング学習に取り組めるように、指導案の充実と見直しを図る。また、タイピングや電子新聞など、学習者用端末を活用する取り組みの充実を図る。 (ICT を活用した教育の推進)	C
指標 各学年、年間に 1 つ以上のプログラミング学習や学習者用端末を活用した取り組みを行う。	
取組内容②【基本的な方向番号 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80% 以上にする。また、長期休業中は計画的に休暇等取得する。平素は ICT 機器を活用し、授業準備や生活指導などの業務の効率化を図る。 (働き方改革の推進)(教員の資質向上・人材の確保)	B
指標 年次有給休暇を 10 日以上取得、夏季・冬季休業日の閉庁日は 3 日以上設定するなどし、教職員の健康管理を行い、働き方改革に努める。	
取組内容③【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】 図書館補助員や図書ボランティアと連携し、学校図書館が落ち着いて読書を行うことができる安らぎの場、そして、開かれた学びの場となるよう環境を整える。また、読書週間等にも一緒に取り組み、内容の充実を図る。さらに読書カードを活用し、児童の読書活動の交流を行う。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)	B
指標 各学期ごとの読書週間について、図書館補助員や図書ボランティアと計画を共有し、一緒に取り組み、児童の読書への意欲を高める。	
取組内容④【基本的な方向番号 8、生涯学習の支援】 学習内容に応じて、学校図書館の本を活用し、調べ学習に取り組む。必要に応じて、市立図書館と連携し、団体貸出などを利用する。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)(学校図書館の活性化)	B
指標 学校図書館やその蔵書を活用した授業を月に数回行うようにする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の８１．４％（令和６年９月まで）であり、目標を上回っている。

○週１回の「ゆとりの日」の設定と、夏季休業中に５日の学校閉庁を実施できた。【取組内容②】参照

○大阪市小学校学力経年調査が１２月実施予定のため、現時点では結果の分析を行うことができない。

取組内容①タイピングの練習をする時間を設けたり、電子新聞を読んで、新聞紹介をしたりするなど、学習者用端末を活用する取り組みを行うことができた。しかし、系統的なプログラミング学習に取り組めるように、指導案の充実と見直しを図るには至っていない。

取組内容②教職員に計画的に休暇等取得するように声かけするとともに、休暇を取った教職員のカバーを組織で行うことで、各自年次有給休暇を順調に取得している。引き続き有給休暇を順調に取得していけるよう声掛けを行い、バックアップできる校内体制づくりを整えていく。

取組内容③読書週間を計画通り実施できている。また、図書館ボランティアや地域の読み聞かせ隊とも連携することで読書への意欲を高めている。児童の読書への意欲を高めるために、学年に応じた読書カードを活用して、読んだ本を記録することができている。

取組内容④学習内容に応じて学校図書の本を活用したり、市立図書館と連携し、集団貸出などを利用したりして、調べ学習などに取り組むことができている。また、学級用貸出ボックスを用意することで、学級に学級図書の本の貸出がしやすくなり、学級で読む本を充実させることができるようになった。

今後の改善点

年度目標

○今後も継続指導する必要がある。

○【取組内容②】参照

○大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①学年の実態に応じた系統的なプログラミング学習に取り組めるように、再度、調整していく必要がある。更に、学習者用端末を活用する取り組みを行っていく。

取組内容②年次有給休暇の効率的な取得と、平素のICT機器を活用した授業準備や生活指導などの業務の効率化を図ることで働き方改革を進めている。ただ、学校行事や様々な対応により、日々の勤務時間にはばらつきがあるので、引き続き組織立てて公務に取り組めるよう体制づくりを整えていく。

取組内容③今後も読書に親しむことができるような読書週間の取り組みを実施し、図書館だよりなどを通して「大阪市子ども読書活動推進計画」の取り組みの周知を図っていく。また、読書カードを活用して、児童の読書活動の交流ができるように取り組んでいく。

取組内容④今後も学校図書館やその蔵書を活用した授業を行っていく。